

4 地球温暖化に対してできること

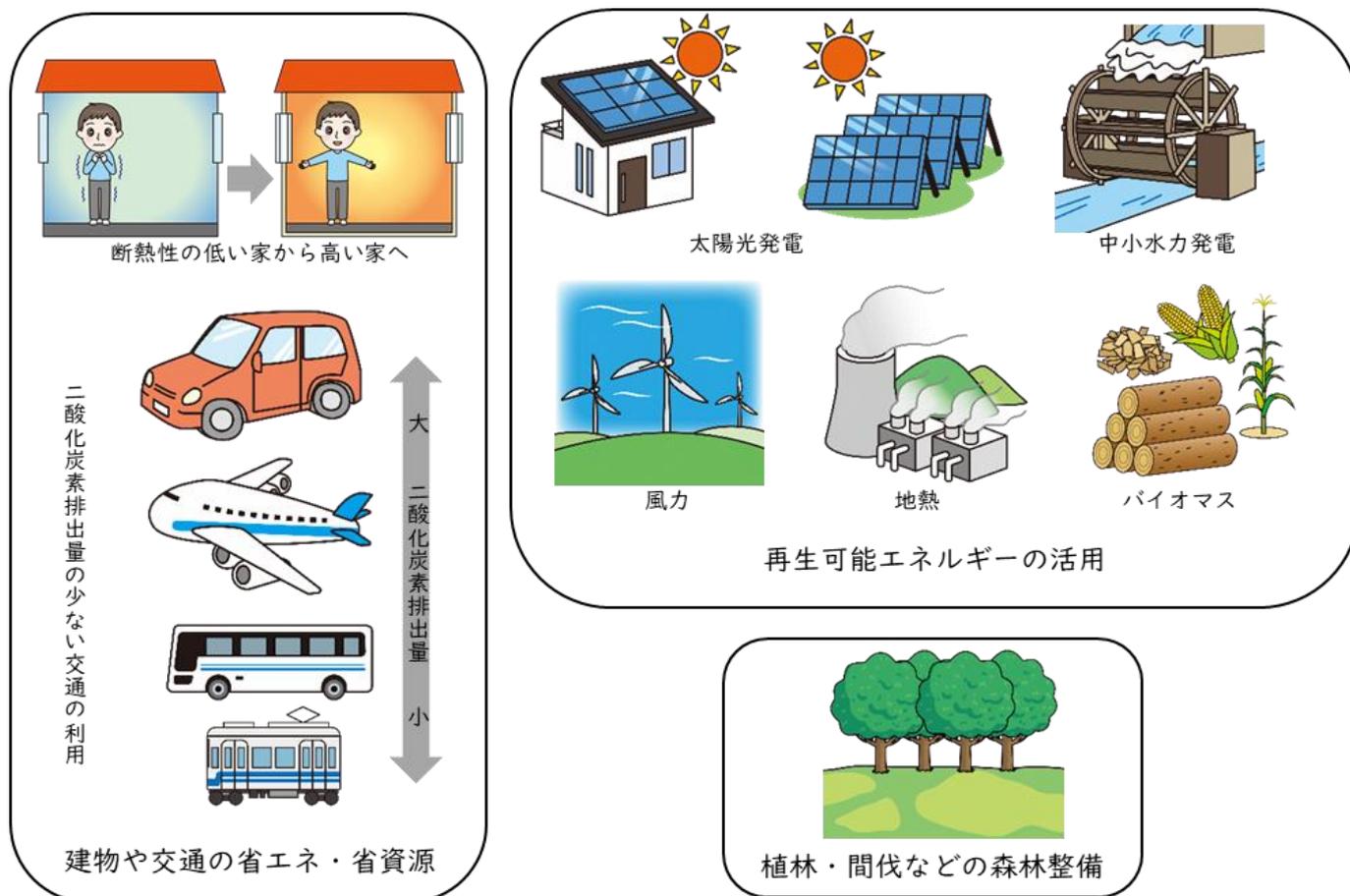
地球温暖化に対して私たちができる取り組みには、2つの視点があります。一つは「^{かんわ}緩和策」、もう一つは「^{てきおうさく}適応策」と呼ばれます。

^{かんわ}緩和策とは

^{かんわ}緩和策は、地球温暖化の進行を止めるために、二酸化炭素などの温室効果ガスの^{はいしゅつ}排出量を減らすことや、二酸化炭素などの^{かんぱつ}吸収量を増やすことをいいます。

二酸化炭素などの^{はいしゅつ}排出量を減らすための方法には、省エネ・省資源を進めること、再生可能エネルギーを活用することなどがあります。また、^{かんぱつ}吸収量を増やすための方法には、植林や間伐などの森林整備をすることなどがあります。

■ ^{かんわ}主な緩和策（温室効果ガスの^{はいしゅつ}排出量を減らす・^{かんぱつ}吸収量を増やす）



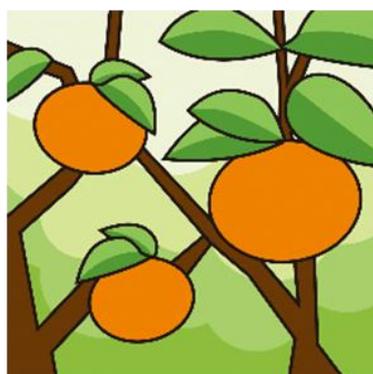
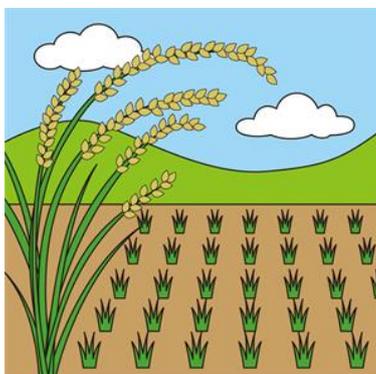


適応策とは

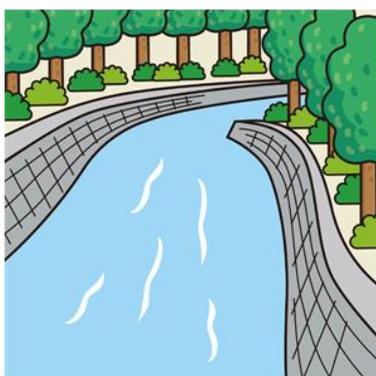
一方、緩和策^{かんわ}によって二酸化炭素を減らしても、地球温暖化の進行が止まるには時間がかかります。そのため、地球温暖化で強くなる自然災害などの悪影響^{えいきょう}に、あらかじめ備えておくことも必要になってきます。これを適応策^{ていおうさく}といいます。

適応策には、暑さに強い農作物の品種改良^{ひんしゅくかいりょう}を行う、土砂災害に備えて河川を整備する、ハザードマップ^{わざあーどまっぷ}を作る、避難訓練^{ひなんくんれん}を行う、熱中症^{ねつちゅうせい}にならないよう身を守る^{みを守}ることなどが適応策に当たります。

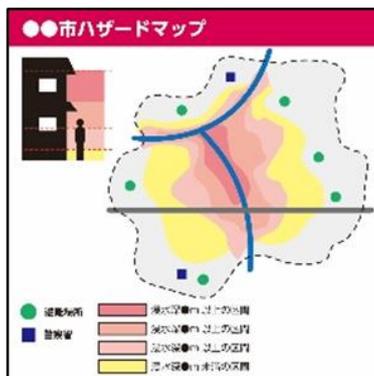
■ 主な適応策（地球温暖化による悪影響^{えいきょう}にあらかじめ備える）



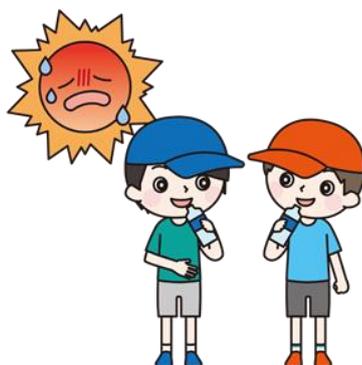
暑さに強い農作物の品種改良



河川の整備



ハザードマップの作成



熱中症の予防